



TRY SHOWA

甲府昭和高校通信

山梨県立甲府昭和高校
令和3年12月1日
第60号発行
電話 055-275-6177
FAX 055-275-2594

URL <http://www.syowah.kai.ed.jp/>

甲府昭和高校生の広がる可能性 芸術の秋・読書の秋・学習の秋

放送部が芸文祭で入賞 関東大会へ

11月3日に行われた芸術文化祭放送部門で、本校放送部制作のオーディオメッセージ作品が優秀賞に入賞し、関東大会に出場します。制作した番組作品は、「蛭、来い。」～いま伝えたい 地方病の歴史～で、地方病のをテーマにした作品です。

明治時代から地方病と闘った地元の昭和町の人々の努力、病を根絶する活動の中で犠牲となった蛭とその蛭を大切にしている方々に焦点を当てました。制作には出井寛杉浦医院館長さんや若尾敏夫昭和町蛭愛好会会長さんにも協力していただきました。

また、朗読部門では、2年の小野光里さんが奨励賞を受賞し、関東大会出場権を得ました。

制作放送部員

- [2年] 立花啓翔(竜王北中)・小野光里(若草中)・米山花菜(白根巨摩中)
- [1年] 加賀美藍子(増穂中)・酒井日葵(竜王中)・岩間康生(浅川中)・小田切伊織(上条中)



「17歳からのメッセージ」今野さんが銀賞

第21回高校生フォーラム「17歳からのメッセージ」(大阪経済大学主催)エッセイコンクールで3年の今野理胡さん(甲府西中学出身)が「銀賞」を受賞しました。



受賞作品 「朝顔の種」

今野 理胡

「りこのあさがおのたね」祖父の側に置いてある封筒の不恰好な字が目に入る。

私の祖父は頑固で神経質で真面目で、気難しい性格だが私に優しい。小学校の頃までは、ほぼ毎日のように祖父母の家に行っていた。いわゆるおじいちゃん子だ。私が大きくなるにつれ、会う頻度は減っていった。祖父はもう耳も遠いし、気力や体力もない。先日学校帰りに久しぶりに祖父母の家に行った時のことだ。庭仕事が好きで祖父が「これを植えよう。」そう言って取り出してきたのは、私が小学一年生の時に学校から持って帰ってきた朝顔の種を入れていた封筒だった。十一年も前の封筒をよく持っているな、と思ったが、問題はそこではない。封筒の中に種が入っているのだ。なぜそんな昔の封筒に種が入っているのか。祖父は毎年朝顔を植えている。私が小学一年生の時に持って帰ってきて以来、その朝顔を育てては種を取り、その種を植えて育ててはまた種を取る。そうして取った種を大切にその封筒に入れて、とっておいたようなのだ。長く、温かい愛に包まれたような気がした。

目の前の祖父を見てみる。ずいぶんと皺が増えた。祖父から土の入ったプランターを受け取る。そして私はそこに朝顔の種を植える。来年も、再来年も、一緒に。

2年網野君が「英語スピーチ大会」で準優勝

11月3日に、第70回山梨県高等学校英語スピーチコンテストが「ぴゅあ総合」(山梨県立男女共同参画推進センター)で開催されました。本校から出場した2年生の網野幹太君(甲府南中学出身)が準優勝をしました。



網野君のスピーチのテーマは、「Beyond Backdraft(なぜ私が理系コースを選択したか、そして将来の夢は科学研究者になること。)」という内容でした。ALTのワイゼン先生に、英作文からスピーチの方法まで放課後何度も指導してもらいました。また自宅では、毎日鏡の前でスピーチ練習もしました。

高瀬さんと高相さん「贈りたい本大賞」優秀賞

「第8回贈りたい本大賞―大切な人に贈りたい1冊―」(山梨県立図書館主催)で2名の1年生が入賞しました。大切に思う人に贈りたい本の書名・著者名等と贈りたい理由を推薦文として150字以内にまとめました。



高瀬 ころ (田富中)
『そして、パトンは渡された』
(瀬尾まいこ 著)

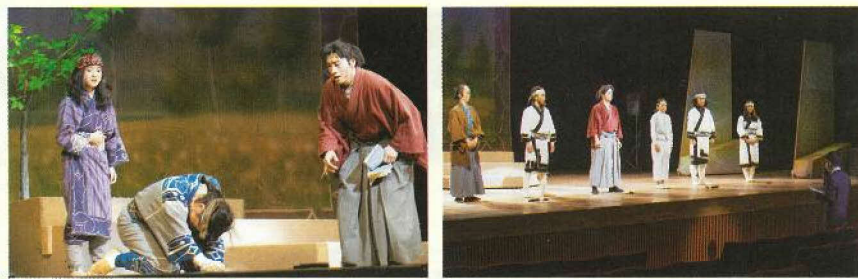


高相 愛花 (白根巨摩中)
『水を縫う』
(寺地はるな 著)

「教養公演会」でミュージカル鑑賞

10月19日、YCC県民文化ホールにおいて、令和3年度「教養公演会」(全校生徒参加)を行いました。本校では、芸術鑑賞会は3年に1度の開催で、本年度が開催の年になります。演目は、ミュージカル「松浦武四郎〜カイ・大地との約束〜」(劇団わらび座)です。鑑賞では、資質能力の「表現力」を身に付けることを目標としました。台詞・演技・照明・衣装・舞台装置などなど、演劇には様々な要素を使って総合的に表現をします。一つ一つの表現力の要素に注目をし、それを今後の学習や高校生活に活用していくことを目指してとしました。

アイヌの人々に対する差別に対して矛盾を感じた主人公松浦武四郎が、アイヌ人の誇りが尊重される社会を取り戻そうと奮闘する物語です。最後に全校生徒を代表して、図書委員会委員長の3年生田村真悠君(白根御勅使中)が、お礼の言葉を述べました。



1年生が県立文学館で文学展示を見学

山梨の文学や広く日本文化への興味・関心をもつ契機とすることを目的として、本校では、毎年1学年生徒全員が山梨県立文学館見学を実施しています。11月上旬、1学年生徒全員が、午後の時間帯に常設展と企画展を見学しました。

「国語総合」の小説教材「羅生門」等の学習事項と連動させ、文学館所蔵の芥川龍之介関係の資料を見たり、横溝正史・江戸川乱歩のミステリー文学企画展も見学し、自ら調べ、レポートをまとめることによって、主体的な学習の方法と態度を学びました。



女子ソフトテニス部(団体)・陸上部(跳躍2名) 新人戦で県優勝

今秋行われた令和3年度山梨県新人大会において、女子ソフトテニス部が団体で優勝。また陸上部の男子三段跳で2年の望月君と女子走幅跳で1年の丸山さんが優勝しました。また、水泳部の2年藤田悠太郎君(押原中)が100mと200m平泳ぎで1位に、なぎなた部では、個人試合で2年上田陽菜さん(玉幡中)が1位に、演技競技で1年高田瞬君(玉幡中)・2年深澤歩加さん(笛南中)が1位になりました。団体では、女子ソフトボール部が準優勝、女子バスケットボール部が3位に、バドミントン部(男子)が団体4位に入賞しました。

(陸上の写真は、スポーツ山梨佐藤氏撮影)



女子ソフトテニス部

部長 **戸澤 朱莉**
(2年八田中)



普段の練習は、平日は基礎練習中心、土日はゲーム形式です。練習で「なぜミスをしたのか」ということを常に頭に入れて練習しています。新人戦当日は、初戦は緊張しましたが、勝ち進むに従って、「絶対優勝してやるぞ」という思いが次第に強くなって行きました。その勢いで優勝することが出来ました。次の目標は、関東やインターハイで活躍できるように更に強くなりたいです。

女子ソフトテニス部

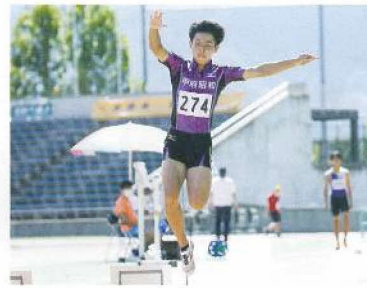
副部長 **奥野 心華**
(2年櫛形中)



試合前は不安でしたが、チーム全体で気持ちを一つにして良い雰囲気の中で戦うことが出来ました。いつもペアで話し合いをして、どのような形で展開していけば良いかを決めながら毎日練習をしています。次は、県レベルに安住することなく、県外の強豪校とも互角以上に戦えるチームを目指したいので、更なるレベルアップを図りたいです。

陸上部 男子三段跳

望月 俊希
(2年櫛形中)



普段からイメージトレーニングで、自分のイメージと実際の動きが一致しているかをチェックすることを心掛けています。競技場での練習機会はどうしても少なくなるので、1回1回を大切に集中して練習しています。当日は優勝できたのですが、新たな課題も見つかり、更なる努力が必要と感じました。3年になったら、関東大会入賞、そしてインターハイで活躍できるようにこれからも頑張ります。

陸上部 女子走幅跳

丸山 星乃
(1年櫛形中)



今回の大会に向けて、助走練習を多めにしました。膝を高く上げるようにしながら、助走から跳躍にスムーズに繋がることを意識しました。当日の大会では、5m40以上という高い目標をたてて臨んだのが成功しました。5回目の跳躍で自己ベストが出て、1位に躍り出ました。イメージトレーニングの成果が出たのだと思います。次は、関東大会で入賞を目標とします。

本校ダンス部が日テレ番組「スッキリ」に出演



日本テレビ情報番組「スッキリ」主催の「ひとつになろう!【ダンスONE プロジェクト'21】-全国高校生ダンス部応援企画-」に本校ダンス部が、作品応募をしたところ、番組スタッフからテレビ出演依頼があり、11月3日に全国放送されました。

ダンス部は、「挑戦」をコンセプトに、課題曲YOASOBIの「群青」の元となった漫画「ブルーピリオド」のワンシーンをアレンジしたストーリー性のあるダンスを制作しました。漫画と同じように美術に興味を持つようになる高校生のストーリー仕立てにし、動画の後半では本校生徒会公認マスコットキャラクター「トライス」君も一緒に踊りました。

部長の2年鷹野音衣(富竹中)さんは、「この動画を見てダンスの魅力を知ってもらい、本校のダンス部に入部してくれる部員がいてくれたら嬉しいです。」と語りました。

●以下の日テレ公式アドレスよりご覧下さい。
(エントリーNo.21-140)

<https://www.youtube.com/watch?v=V7Z9mWn8-Gg>

日テレ スッキリ【公式】YouTubeチャンネル
21-140 山梨:甲府昭和高校 ダンス部
【ダンスONE'21】♪群青/YOASOBI



「英語教育改善プラン推進事業」で授業公開

「山梨県英語教育改善プラン推進事業」として、グローバル社会に生きる生徒に求められる英語による発信力を向上させることを目的としています。11月11日の授業公開では、実際の目的・場面・状況に応じた英語を活用する「話すこと(やりとり)」をテーマとし、コミュニケーション能力を育成するための効果的な言語活動を取り入れた授業実践を行いました。また、大学の有識者アドバイザーとして、朝日大学の亀谷みゆき先生に指導助言をいただきました。



写真右 亀谷先生